

小学校第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

単元名：「ヒロシマ人として」

指導者 熊野町立熊野第一小学校 中村 祐哉

- 1 日 時 令和3年6月10日（木）5校時
- 2 場 所 6年3組教室
- 3 学年・学級 第6学年3組（35名／男子13名・女子22名）



単元について

本校第6学年の児童は、総合的な学習の時間において、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編』p.77に示されている小学校の総合的な学習の時間で意識されるべき三つの課題の中の横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）探究課題例、国際理解にスポットを当てて取り組んでいる。

本単元は、第6学年の総合的な学習の時間の中で、年間42時間計上している国際理解・国際教育の入り口となる22時間である。単元の導入では、第5学年までの総合的な学習の時間で育まれた資質・能力を生かして、現代社会に対する多面的・多角的な見方・考え方を働かせながら、「ヒロシマと広島」(註1)をテーマに本単元の学びの入り口（課題の設定）へと向かわせていく。

総合的な学習の時間における国際理解・国際教育について小・中連携を踏まえながら持続可能な学びを展開していくためには、児童自らが問題を発見（課題の設定）し、調査結果（情報の収集、整理・分析）をまとめ、発信（まとめ・表現）していく必要がある。その上で、教師や児童同士の評価を経て、更に調査を継続（新たな探究的な学びへのスパイラルの構築）していくなど、学校内外の人々との連携を図ることが、児童自身のこれら主体的な学びへとつながっていくものであると捉えられる。

本単元を通じて、ヒロシマから世界の恒久平和実現に向けた取組について思考・発信する次世代の担い手を育てることはもとより、本単元での学びを通じて、世界の現状から戦争と平和についての取組を批判的に考えていくことによって、それら「批判的に考える力」は「未来を予測し計画を立てる力」へと紡がれ、児童に獲得させたい資質・能力にも繋がっていくことが期待できる。

児童の実態

次に提示する表は、本学級で本単元導入前に行った総合的な学習の時間の学習に関する児童の意識調査アンケートの結果（令和3年5月25日実施／欠席3名）である。

質問内容	肯定的回答（人）		否定的回答（人）	
	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
①「総合的な学習の時間」の学びは楽しい。（関心がある）	27	5	0	0
②授業における <u>予想の時間</u> では、今まで学んできたことを使って予想をすることが多い。	14	16	2	0
③授業における <u>予想を確かめる時間</u> では、情報を比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見つけたり（関係付け）して、何が分かるのかを考えることができる。	17	15	0	0
④授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるような発表をしている。	9	21	2	0
⑤「総合的な学習の時間」と「社会科」は同じように学習を進めていくことができる。	20	11	1	0

アンケート結果から、特筆すべき点として、ここでは④・⑤の問いについて扱いたい。まずは、⑤の問いに対して、[よくあてはまる]と答えた複数児童に回答理由を問うた。

- ・「問題を作って、予想して、資料で確かめて、学習したことを振り返る授業の流れが社会科と総合（以下、【児童の実態】項目においては、総合的な学習の時間を総合と表記）は同じだから。
- ・中村先生が、社会科で授業したら社会科って思う。総合で授業をしたら総合って思う。やり方も勉強することも同じに感じるから。どちらも最後は、自分たちに身近なことをしている。

・どちらの勉強でも実際に学校の外に出て、その場所を見学できるし、必ず関わっている人が出てきて、その人の話にも注目して勉強できるから。

これらの回答サンプルにあるように、本単元と融和性が高い社会科での学びの方法と、総合的な学習の時間での学び方は類似していると考える児童が大半であり、他教科での学びや社会的事象に関わる人々からの学びを生かしながら、取り扱う事象内容を概ね「自分事」に引き寄せながら考えることができる。

しかし、④の質問から学びの中で思考し、整理・分析したことを分かりやすく発信することに対しては、自信のない児童がみられる。他教科とも関連させながら、デジタル機器の活用も発信の手段として取り扱っていくことで総合的な学習の時間に限らず、これらのスキル向上を図っていく必要がある。

単元の指導および協働的な学びの場の設定について

本単元の課題設定の場面では、第5学年までの総合的な学習の時間を中心として育まれた資質・能力を生かして、現代社会に対する多面的・多角的な見方・考え方を働かせながら、「なぜ広島を自慢に思うのか？」をテーマに、広島の誇りに想うことについて、ひと・もの・こと・場所の4つにカテゴライズさせながら、調べ学習をスタートさせる。これらは、単元を見通す問いを設定させるために取りこませるものである。これらの調べ学習の中で広島の自慢や誇りとして、意見が二分されるのが「原爆ドーム」の存在である。過去の広島に目を向ける児童にとっては、「原爆ドーム」が抱えるその歴史的惨状から誇りとは言えない。未来の広島に目を向ける児童にとっては、世界遺産に登録され、広島平和記念公園と併せて年間約100万人が訪れる一大観光地であり、恒久平和希求の世界的発信源ともいえる「原爆ドーム」は誇りと言える、と捉えるであろう。これら歴史的・社会的事実から生み出される情意的葛藤からそれぞれ戦争と平和について考える「ヒロシマと広島」をテーマに本単元における探究的な学習の時間を展開していきたい。

情報の収集や整理・分析の場面では、国立広島原爆死没者追悼祈念館の関係職員の方々との連携を図りながら、コロナ禍の状況ではあるが、できる限り人と人とのつながりから想いを感じ取れる場を設定していきたい。

まとめ・表現の場面では、グループ間ポスターセッション、学級間ポスターセッションの形式を用いて、「ヒロシマと広島」に関連するテーマの発表を行い、次単元である「国際人として」につなげていきたい。次単元である「国際人として」では、本単元のポスターセッションから新たな探究のスパイラルへと誘い、海外の方々へ児童の探究的な学びの成果を発表する場へと紡いでいきたい。

協働的な学びの場については、児童が必要と感じる場に併せて設定していく。児童が探究していきたいテーマ別に分かれてグループを設定することで、課題解決に対して主体的に取り組ませたい。グループ毎にテーマに応じた対話的な学習を進めていく中で、児童自らの考えや課題が新たに更新され、課題となる本事象（ヒロシマと広島）の深部を見極めようとする一連の知的営みへと昇華させていきたい。

単元の目標と評価規準

【単元の目標】

○ヒロシマと広島に関する情報の収集を進める中で、整理・分析結果からヒロシマと広島からの平和発信に対する価値判断を行い、ヒロシマ人としての当事者意識をもって自らの考えを発信できる。

【評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
分かる・できる力	自分の考えを表現する力	協働する力	自分の成長に気付く力
・課題解決に向けて適切な方法で情報を集め、自らの考えや立場を明確にする中で、必要な情報を取捨選択し、話し合いや取材を通して発信する情報を精選し、自らの考えを構築している。	・ヒロシマと広島について、相手に応じた情報を発信するために、筋道を立てて思考を深め、獲得した情報を精選して表現につなげている。	・課題の解決に向けて情報を収集・分析し、考えをまとめ、発信する活動を、仲間との対話的な活動を通して進めている。	・学習を振り返り、平和に対する自分自身の想いの変容に気づき、自らの思考の深まりを実感している。

指導と評価の計画

	学習内容『ヒロシマ人として』（時数：22 時間）	主たる評価規準
一	<u>課題の設定</u> ○広島 の自慢と誇りについて調べる。(3) ・広島 の自慢と誇りについて整理するなかで「戦争と平和」,「原爆ドーム」というキーワードを扱う。 ・「原爆ドーム」 についての価値判断の学習を行うことで, 探究的な学びに向けての意欲を喚起する。(本時)	●分かる・できる力 これまでの総合的な学習の時間におけるレディネスや広島についての調べ学習を基に, 課題を設定することができる。
二	<u>情報の収集</u> ○「ヒロシマと広島」 のテーマについての調査の見通しをもち, 発信する対象について検討する。(3) ・ヒロシマ の何について知り, 誰に伝えていくのかについて調査グループを立ち上げ, 検討させる。 ○「ヒロシマと広島」 について, 過去のヒロシマを見つめる視点・未来のヒロシマを見つめる視点という立場から調査する。(10) ・視点や立場 の違いを生かしながら, 適宜調査内容を交流させる。	●協働する力 課題の解決に向けて資料を集めたり, 調査したり, 整理・分析する活動をグループにおける対話的な活動を通して進めることができる。 ●分かる・できる力 調べようとしていることがヒロシマ の想いや願いにつながっているかを常に考えながら, 調査を進めることができる。
三	<u>整理・分析</u> ○収集した情報をもとにグループ間のポスターセッションを行う。(4) ・発表の内容から収集した情報の分析を行い, 異なる立場から整理させる。 ・自分たちのグループ のもつ情報と比較させ, 他のグループのポスターセッションに生かせる内容があれば活用させる。	●自分の考えを表現する力 「ヒロシマと広島」について, 相手に適した情報を伝えるために, 筋道を立てて思考を深め, 表現している。
四	<u>まとめ・表現 (次単元へのつながり)</u> ○整理・分析した情報をもとに, 国立広島原爆死没者追悼祈念館関係職員の方々のお話を聞き, グループ毎のポスターセッションも行う。(2) ・関係職員 の方々のお話から, 実際にヒロシマの想いや願いを発信する活動に触れる中で, 本単元の学習の振り返りを行う。 ・関係職員 の方々のお話を自分たちのポスターセッションと比較することで改善点を見出し, 情報の収集・整理・分析を更に深めていける次単元を構想させる。	●自分の成長に気付く力 学習を振り返り, ヒロシマと広島, 戦争と平和に対する自分自身の考えや想い, 認識の変容に気づき, 思考の深まりを実感している。

本時の学習（3 / 22 時間）

●本時の目標

「原爆ドーム」に対する価値判断を行い, 多角点な視点, 建設的な視野をもって課題を設定することができる。

- (1) 準備物…【指導者】黒板掲示用資料, モニター提示用スライド資料, (児童用)ワークシート
 【児童】第6学年社会科教科書, 第6学年社会科資料集, 児童用タブレット PC

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 ◎支援を要する児童への手立て	準備物 ●評価規準 (評価方法)
1 前時までの学びを振り返り, 本時の問題について確認する。		
○前時までの学びを振り返る。	・広島 の自慢に思うこと, 誇りに思うことをひと・もの・こと・場所でカテゴライズした前時板書を提示する。	・児童用タブレット PC

2 問題を設定する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【問 題】原爆ドームはヒロシマの誇りといえるのだろうか？</p> <p>【めあて】みんなで作った問題について、自分の立場を示し考えをもつことができる。</p> </div>		
○前時に作成した問題を確認する。	・なぜこの問題が作られたのかというプロセスも提示する。	・黒板掲示用資料
3 自分の考えをもつ。		
○問題に対する自分の立場を明確にし、その立場を選択した理由を考えとしてまとめる。	・立場を示した上で自分の考えを記述させる。 ◎リード文を示し、自分の考えを当てはめていくフォーマットを提示する。	・ワークシート ・第6学年社会科教科書 ・第6学年社会科資料集 ・児童用タブレットPC
4 ★協働的な学びの場を設定する。		
○自分の立場と考えを学びの場で共有する。	・Google Classroomを活用させながら、自分と同じ立場・自分と異なる立場の児童の意見と自分の考えを比較させ、思考の深化を図らせる。	・ワークシート ・児童用タブレットPC ・モニター提示用スライド資料
5 本時のまとめをする。		
○これから、ヒロシマについて知り、伝えていくためには、具体的にどのような情報を収集していくのかについてまとめを行う。	・ヒロシマを伝えていくために自分たちが知っておきたいこと、知るべきことにまとめのスポットを当てさせる。	・ワークシート (今の自分にとって「原爆ドーム」とは？の部分を記述させる)
6 本時の振り返りをする。		
○立場の異なる児童の意見からの学びを中心に、次時へのつながりを踏まえた振り返りを行う。	・本校で共通する「高学年の振り返りの視点」を示しながら、本時で他者から学んだことを中心に振り返りを書かせる。	●これまでの総合的な学習の時間におけるレディネスや広島についての調べ学習を基に、課題を自分事に引き寄せて設定することができる。 ワークシート記述(分かる・できる力)

参考文献

- 総合的な学習の時間、PBL 事業に関連する参考文献
 - ・朝倉淳・永田忠道 (2019) 『総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の新展開』 学術図書出版社
 - ・黒上晴夫 [編] (2017) 『平成 29 年度版 小学校 新学習指導要領 ポイント総整理 総合的な学習の時間』 東洋館出版社
 - ・公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (2016) 『協働学習プロジェクトをはじめよう』
 - ・小島宏・寺崎千秋 [編] (2000) 『総合的な学習の評価計画と評価技法』 明治図書出版
 - ・田村学 (2021) 『学習評価』 東洋館出版
 - ・奈須正裕 (2017) 『「資質・能力」と学びのメカニズム』 東洋館出版
 - ・藤原さと (2020) 『「探究」する学びをつくる』 平凡社
 - ・文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的な学習の時間編』
 - ・文部科学省国立教育政策研究所 (2020) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 総合的な学習の時間】』
- ヒロシマと広島、戦争と平和に関連する参考文献
 - ・安西巧 (2016) 『広島はすごい』 新潮社
 - ・伊藤剛 (2015) 『なぜ戦争は伝わりやすく平和は伝わりにくいのか』 光文社
 - ・佐藤真澄 (2018) 『ヒロシマをのこす 平和記念資料館をつくった人・長岡省吾』 汐文社
 - ・佐藤美由紀 (2016) 『世界の著名人が伝えていた ヒロシマからの言葉』 双葉社
 - ・松田哲也 (2019) 『2045 年、おりづるタワーにのぼる君たちへ』 ザメディアジョン

●註記

(註 i) 「ヒロシマ」と「広島」の定義については、1998年5月に広島市総合計画審議会からの広島市基本構想の答申で整理されたものに準ずる。片仮名表記の「ヒロシマ」は、被爆都市として核兵器廃絶と世界恒久平和の実現をめざす都市であることを意味する。鍵括弧付き漢字標記の「広島」は、広島と命名されたことを強調する場合に使用する。また、参考までに鍵括弧付き平仮名標記の「ひろしま」は、文化的側面から広島を表す場合に用いる。英語標記のHIROSHIMAは、平和の取組を基軸とした世界平和をめざす都市であることを示す。